

事例30 単元「武家社会の展開と室町文化」

歴史に名を残した人物の履歴書作りをしてみよう！

地歴 日本史B 第2学年

石川県立金沢西高等学校・教諭

1 事例の概要

本校の最大の特徴は単位制であり、それは学年の区分を取り払い、3年間で必要な単位を取得して卒業するシステムである。2・3年次には一人ひとりの進路に合わせて自分の学びたい科目を選び、自分だけの時間割を作ることが出来る。生徒たちは、与えられたことはやり遂げようとはするものの、主体的に学ぼうとする姿勢の不十分な生徒もおり、進路志望先は大学・短大・専門学校進学、就職などさまざまである。

さまざまな進路志望を持つ生徒たちを相手に、授業を進めるにあたっては、日本史に少しでも興味・関心を持ってもらうことを心がけ、生徒に問いかけをしながら、歴史の一場面を身近な話に例えて話してみたり、先達の偉業や歴史のこぼれ話などもできる限り紹介している。ただ、限られた時数の中で教科書を終えようとすることに追われ、教師による一方的な授業に終始するという状況はなかなか改善できないでいる。そこで今年度は、授業を通じて、生徒自らが歴史について少しでも「学びたい」と思う気持ちを育てられないものか、また少しでも主体的・発展的な学習の機会を生徒に提供できないものかという思いから、歴史上の人物履歴書作りという調べ学習を取り入れてみた。

年に数回（古代、中世、近世、近現代それぞれの時代に登場する代表的な人物調べ）とはいえ、生徒が調べて、発表するというスタイルの授業を取り入れることによって、生徒一人一人が授業で学んだことをより確かなものとして、自ら主体的に学ぼうとする姿勢を身につけるきっかけとなっている。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ① 建武の新政、動乱期に成長した守護大名とその支配体制について把握し、室町幕府の組織・経済的基盤および守護大名との関係について考察する。日明貿易をはじめ室町幕府の外交政策について、当時の東アジアの動向を踏まえた上で理解する。
- ② 室町期における社会経済の発展、下剋上の社会について理解するとともに、室町文化について、東アジアの動向を踏まえながら理解する。また、戦国大名の領国経営と都市の発達について考察する。
- ③ 歴史上の人物の履歴書作りに取り組み、調べた人物の業績等について、基本的事項を踏まえた説明ができる。

(2) 指導上の工夫点

- ① 指導法や学力定着の工夫
 - ・ 授業は板書時間の節約や調べ学習時間確保のため、授業用プリントを配布して進める。
 - ・ 提出された人物履歴書は教師が評価した上で返却する。そして、グループ内で発表し合い、他者の発表内容の要点をまとめることによって調べ学習の成果を共有する。
 - ・ 人物履歴書の中から特に優れたものについて、教師が全体の前で発表し、補足説明を行うことによって、学習内容の定着を図る。
- ② 評価の方法
 - 人物履歴書は基本的にはA・B・Cの3段階（内容によっては④もあり）で教師が評価し、前期及び学年の評定に加味する。

B-1 人物履歴書

3 指導の実際

(1) 本時

学習活動・時間	生徒の活動
導入・5分	学習の目的や流れの確認
展開Ⅰ・25分	教師の発問に答え、板書事項を授業用プリントに記入する。
展開Ⅱ・15分	グループ分け（1グループ5～6名）・調べる人物の決定・人物履歴書作り
まとめ・5分	人物履歴書完成・発表準備・提出、本時の内容の確認

(2) 次時

学習活動・時間	生徒の活動
導入・3分	学習の目的や流れの確認、グループ内での発表の意義の確認
展開Ⅰ・10分	各グループ内での発表・それぞれの発表内容の要点まとめ 内容の優れた作品について、教師による全体への発表と補足説明を聞き学習内容を定着させる。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果について

① 調べ学習への積極的な取り組み

「今回は江戸時代の誰々について調べてみたい」という声が聞かれるなど調べ学習に積極的に取り組もうとする姿勢が見られた。教科書・図説・用語集だけでなく、図書室の本やインターネットなどで知りたいことを調べるという生徒も見られ、生徒自らの学びたいという気持ちを引き出すということについては一定の成果があった。また、各グループ内での発表では、素晴らしい発表に対して自然と拍手がわき起こることもあった。

② 学習内容の深化

多くの生徒が「歴史を学ぶ」ということを、単に「テストに出そうなことを暗記すること」ととらえている。しかし、歴史上の人物を調べていくうちに、その人物の断片的なイメージではなく大まかな全体像をとらえることができるようになった。また、生徒は幾つかの新たな発見をして、調べた人物についての見方を広げたり、深めたりして学ぶことの楽しさの一端を知り、そのことが次の調べ学習への意欲を高めたり授業に臨む態度の向上につながった。

(2) 課題について

① 学習成果の共有化不足

自分が調べた人物については、詳しく説明するものの、他者の発表内容をまとめ、理解しようとする姿勢には欠ける生徒がおり、一人一人が調べた成果をグループ内で共有化し、知識の定着を図ることについては課題を残した。また、調べることそのものには抵抗なく積極的に取り組めるものの、グループ内での発表となると尻込みしてしまう生徒が一部に見られ、そうした生徒に対する働きかけも今後の課題といえる。

② 授業内容の精選

単元ごとの学習内容の定着を図り、主体的に学ぶ姿勢を育むためには、1単元の終了前後に50分の時間をかけて調べ学習を実施していくことが理想である。しかし、実際にはそのような余裕がないため、調べ学習を実施する時間も限られてくる。図書室やインターネットを使った50分の調べ学習を実施していくためには、これまで以上に授業内容の精選を図る必要がある。